

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ  
川崎市外国人市民代表者会議

だい 11 期 だい 1 年 だい 4 回 だい 2 日  
(第 11 期 第 1 年 第 4 回 第 2 日)

ぎじろく  
議事録

1 日時 2017 (平成 29) 年 2 月 12 日 (日) 午後 2 時～5 時

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 20 人

葉 元聡、鈴木 イエレナ、チャクラヴァルティー アルナンシユ、金 スンオ  
グ、タカハシ ライゼール ラモス、レ ベト ギア カン、幕内 嘉雯、河本  
ファビオ 良則、スタント イルワン、ピーターソン ケリー、河 相宇、  
ホサニ アハマド ユースフ、牟 鳳菊、韓 簫、ケゼングア エドワード  
ムウィンピ、キースタ ケーシー ジェイ、蔣 香梅、ヴィラマー ジェリー、  
ヒラチャン アスカ、サリ アビシエク

(2) 事務局

鈴木 室長、小川 担当課長、長澤 担当課長、須藤 課長補佐、小沢 担当  
係長、丸橋 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 1 人

5 会議次第 (公開)

(1) 開会のあいさつ

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ケゼングア副委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議 2016 年度、  
第 4 回 第 2 日を開催する。本日は、ヘイさん、徐さん、ダニエラさん、

オクサナさんとファチマさんから欠席の連絡が届いている。次に、今日の日程と配布資料の確認について、事務局から説明をお願いする。」

(事務局須藤課長補佐が説明。)

ケゼングア副委員長「次に、前回会議のまとめについて事務局から説明をお願いする。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明。)

ケゼングア副委員長「何か質問や意見はあるか。(なし)それでは、議事に入る。

まずは、行事への参加についてだ。事務局から説明をお願いする。」

(事務局丸橋職員が資料3に基づき説明。)

ケゼングア副委員長「何か質問はあるか。(なし)資料にある行事以外に何か参加した方がよいというイベントなどはあるか。」

サリ委員「行事については事務局が知っているのではないか。」

事務局丸橋職員「新しい行事というのは今の段階ではとくに思いつかない。参加できそうな行事があれば、その都度、会議で紹介したい。」

ケゼングア副委員長「では、今日はひとまず資料にある行事について参加するかどうか決をとって決めたい。市民祭りへの参加に賛成の人は手を挙げてください。

(賛成多数) インターナショナル・フェスティバルに参加することに賛成の人は手を挙げてください。(全員賛成) 多文化フェスタさいわいへの参加に賛成の人は手を挙げてください。(賛成多数) それでは、行事への参加については、3つとも参加するという事で決定した。次に、実行委員会についてだ。事務局から説明をお願いする。」

(事務局丸橋職員が資料2に基づき説明。)

ケゼングア副委員長「事務局からの説明のとおり、来年度も臨時会、ニューズレター、市民祭りの3つの実行委員会をやるということでよいか。質問や意見はあるか。

(なし) それでは、みなさんの希望を確認したい。(順番に挙手 → 調整) 今日、欠席の代表者については、事務局に希望の確認をお願いする。

それでは、ここからは部会審議だ。情報・社会教育部会は第1会議室、地域生活部会はレセプションルームだ。全体会の再開は16時30分からということでお願する。」

## 【情報・社会教育部会】

ピーターソン部会長「それでは、部会を始めたい。まずは、前回の会議の確認につ

いて、事務局から説明をお願いする。」

(事務局丸橋職員が資料1に基づき説明。)

ピーターソン部会長「何か質問はあるか。(なし)では、今日のテーマは情報についてだ。事務局から資料の説明をお願いする。」

(事務局丸橋職員が資料4-1に基づき説明。)

ピーターソン部会長「資料について、何か質問はあるか。」

サリ委員「調査結果についてだが、情報の入手方法でインターネットが66.6%、市のホームページが14.4%となっているが、市のホームページはインターネットには入らないのか。」

事務局丸橋職員「分けて調査した。」

チャクラヴァルティー委員「多言語ページのアクセス数は、外国人なのか。川崎以外の全国からアクセスしたのものも含まれているのではないか。」

事務局丸橋職員「ページにアクセスしたのが誰なのか、どこからアクセスしたのかまではわからない。」

ピーターソン部会長「それでは、審議に入りたい。具体的な提言につながるような審議をしたいと思っている。ご協力をお願いする。みなさんには宿題で市のホームページを見てきてもらったと思うが、何か改善すべきだと感じたことはあるか。」

キースタ委員「川崎市だけではなくて、ヨーロッパの同じ規模ぐらいのいくつかの都市の英語のページもちょっと調べてみたが、全体の印象としては川崎市の情報量は圧倒的に多かった。基本的なごみの収集や医療機関など、窓口があって何かあればそちらに問い合わせてくださいという案内があって、それぞれの窓口で英語の資料を出していた。ホームページ以外にもアプリ、Facebook、Twitterなどいろいろあって、情報は本当にたくさんある。課題としては、何が最新なのかよくわからない。日本の行政の特徴として、職員の異動がすごく早いので、うまく引き継ぎができていないのではないかと思う。あとは、情報はたくさんあるが、分散し過ぎているので、もう少しまとまっているとよいという印象をもった。」

スタント委員「たとえば、ごみの収集の情報を探そうとしたときに市のホームページを見ればよいのか、それとも自分が住んでいる区のホームページを見ればよいのか迷ったりする。でも、内容に関しては充実していて、欲しい情報はすでにあると感じた。」

ピーターソン部会長「私も同じ印象だ。情報があり過ぎるので、集約して、リスト化したらよいと思う。」

レベト委員「普段の生活であまり川崎市のホームページを見ようとは思わない。見たいと思うのは、何か困ったことがあるときだ。たとえば、子どもが小学校とか幼稚園に入りたいときにどうしたらよいか、調べ始めると思うのだが、情報の整理のされ方はそういうかたちになっていないように感じた。」

ヒラチャン委員「たしかに外国人の場合は情報にアクセスしにくいというのがあると思うが、たぶん、日本人もそれほど市のホームページを見たりはしないと思う。考えなければいけないことは2つあると思う。1つは言語で、もう1つはアクセスのしやすさだと思う。アクセスのしやすさという問題は、外国人だからということではなくて、日本人とも共通した課題だと思う。」

キースタ委員「市のアプリを見たら、ごみの分別という項目があったが飛んでいくと日本語しか情報がなかった。それと、一番イライラしたのが、タイトルやサブタイトルが英語になっているのに、飛んでみたら日本語しかないということがあった。どうしたらよいのだろうと思った。」

サリ委員「PDFの情報がたくさんあるが、PDFは自動翻訳されない。PDFにしなればいけない理由は何かあるのか。」

キースタ委員「もしかしたら川崎市とは違うかもしれないが、秋田県庁で似たような仕事を3年くらいやったのだが、理由は2つあると思う。1つは、翻訳が頼みやすい。欲しい情報をWordで送って、それを翻訳してもらってそのまま載せるというのが一般的だと思う。もう1つはバージョンの管理だ。」

スタント委員「webのデザインをきれいにしようと思うと、多言語でそのまま載せるのはかなり大変だと思う。PDFでもWordでも、それを貼るのが一番早い。ただ、重要な情報ならやはり多言語にした方がよいと思う。」

レベト委員「あと、PDFは検索しにくいというのものもある。」

キースタ委員「過去の議題を見ると、新しい情報を追加しようというものが多かったが、私の印象では情報を整理することが必要なのではないかと思う。」

ピーターソン部会長「少し議論を整理すると、2つくらいのがテーマになっていると思う。1つは、情報が分散され過ぎているので、整理した方がよい。もう1つは、PDFのことも含めて検索しやすくする。多言語化というのものもあるが、言うのは簡単だが実際にはなかなか難しい部分もあると思う。」

キースタ委員「10年くらいGoogle翻訳を使っているのだが、去年の10月か

らアルゴリズムが変わっていて、昔と比べて今はすごくパフォーマンスがよくなっている。」

ピーターソン部会長「情報に関しては、今のところ参考人招致やフィードバックは予定していないが、何か希望はあるか。」

レベト委員「外国人相談の窓口の方に直接話を聞いてみたい。」

チャクラヴァルティー委員「参考人のアイデアではないが、まず情報があるかないかということでは、情報はあるとうことがわかった。次に、情報を整理して、検索しやすくしようという意見があった。その上で、ポイントは市のホームページには情報はいろいろあるということを知らせるために、ホームページに誘導するようにPRすることにあるのではないかと思う。」

サリ委員「新しく転入してきた人には、ウェルカムセットなどがあると思うが、すでに住んでいる人にはどうしたらよいかということも考えなくてはいけないと思う。たとえば、市から外国人に対して、いろいろな情報がここにまとまっているとか、アプリがあるといった案内を郵送で送ったりできないだろうか。」

レベト委員「外国人といっても範囲が広い。まずは本当に情報がわからなくて困っている人がどのような人なのかを明確にして、どうやってその人たちに情報を提供するかということを考えるべきではないかと思う。やはり、あまり日本語が得意ではない人や日本に来たばかりの人が困っているのではないか。」

スタント委員「個人的には、わざわざ市や区のホームページで探すよりもGoogleで探すと思う。ただ、それが正しい情報なのかというのは怪しいので、やはり市や区のホームページだと安心するというのがある。」

牟委員「安心感という意味では、私は学校で日本語指導等協力者をやっているが、学校で渡された資料は信頼感があると思う。日本語指導等協力者が積極的に情報を渡すようにしたらどうか。私はとにかく相談窓口が重要だと思うので、その情報を渡すようにしている。」

ヒラチャン委員「相談窓口が大事というのはわかるが、学校というのは難しいと思う。それに、学校としてしまうと子どもがいない人はどうするのか。」

キースタ委員「相談窓口はすごく重要だと思う。結局、すべての情報を翻訳してホームページにアップすることはできない。」

ピーターソン部会長「話を整理すると、ホームページの情報という話と相談窓口という話が出ていて、その2つをつなげるということが大事だということになっ

ていると思う。参考人については、ほかに希望はあるか。（なし）残りの時間も少なくなってきたが、何か意見はあるか。」

レベト委員「せっかくインターネットが発達してきているので、インターネットを使った情報の発信を軸に考えたらどうか。」

サリ委員「PDFについてだが、すべて無くす必要はないと思う。」

キースタ委員「多言語やPDFにする際のガイドラインを作るというイメージか。」

事務局丸橋職員「資料にも載せたが、ガイドラインはすでにある。」

キースタ委員「私がイメージしているのは、情報の出し方についてのガイドラインだ。たとえば、日本語があって横に多言語があるのは非常に見づらい。どちらかということ、日本語の資料、英語の資料というふうに分けた方がわかりやすい。」

ピーターソン部会長「いろいろと意見が出たが、今日のところはここまでとしたい。残りの時間で次回の審議テーマの外国人向けオリエンテーションコースと日本語学習の進め方について決めたい。まずは事務局から説明をお願いする。」

（事務局丸橋職員が資料4-1に基づき説明。）

ピーターソン部会長「何か質問はあるか。（なし）次回の資料のリクエストはあるか。」

牟委員「各区でやっている日本語学級の人数が知りたい。」

レベト委員「オリエンテーションといっても2つの軸があると思う。1つはルールを知ってもらうというもの、もう1つは生活をより便利にするというもの。どちらにフォーカスするか決めた方がいいと思う。」

スタント委員「学校の上履きのような日本人なら誰でも知っているような、暗黙のルールのようなものの一覧があるとよい。」

事務局丸橋職員「みなさんの国にはオリエンテーションコースはあるのか。」

キースタ委員「国籍をとるには、もちろん、テストや憲法についてなどいろいろな研修があって、すごく勉強させられる。でも、通常のビザに関してはとくにない。」

サリ委員「インドに外国人がたくさん来るということはないのですが、会社が面倒を見ていたりする。」

チャクラヴァルティー委員「もちろん、ルールを知ってもらうのは大事だと思うが私がイメージしていたのは、たとえば急に事故に遭ってしまったときにどうしたらよいかなどだ。」

ピーターソン部会長「国際交流センターでは、いろいろな講座をやっていると思うので、次回、参考人として国際交流センターの方に来てもらうのはどうか。賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）ほかに次回の資料のリクエストはあるか。」

サリ委員「市から外国人向けに郵送しているものは何があるのか知りたい。」

事務局丸橋職員「すべての外国人の方に郵送しているものはない。代表者会議の募集案内を対象者がいる世帯に送っている。次回の会議のテーマは、日本語学習とオリエンテーションセッションコースだ。」

サリ委員「情報についてはもう終わりか。」

ピーターソン部会長「終わりではないが、いったん区切って次のテーマに行く。」

ヴィラマー委員「オリエンテーションセッションコースではルールを教えるということだが、たとえばルールを違反している件数などはわかるか。」

キースタ委員「そこまで厳密にしなくても、外国人に知って欲しいことと外国人が知りたいことに軸をおけばよいと思う。」

事務局丸橋職員「参考人招致についてだが、当日にいきなり聞かれても答えられないこともあるので、基本的には事前にみなさんからの質問を集めて、準備をしてもらって、当日回答してもらうことになる。質問は今月中に事務局までメールで送ってもらいたい。」

ピーターソン部会長「ぜひ、みなさん積極的に事前質問を出すように。今日は以上で終わりにする。」

## 【地域生活部会】

金部会長「それでは、地域生活部会を始める。まずは前回会議の内容の確認について、事務局から説明をお願いします。」

事務局高橋専門調査員「先ほど全体会で報告したことがすべてなので、今日は省略してもよいか。（異議なし）」

金部会長「では、今日のテーマは子育てについてだ。まずは事務局から資料説明をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が資料5-1に基づき説明。）

金部会長「それでは、準備してもらった参考資料を実際に見てみよう。」

（実際に資料を手にとって閲覧）

金部会長「それでは、そろそろ審議に戻りたい。実際に資料を見てもらったが、何

か質問や意見はあるか。私から2つよいか。まず、国際交流センターへのヒアリングで妊娠5か月、6か月、7か月になってから相談に来る人が多いということなのだが、どういった相談なのか。産むところを探していて困っているという相談なのか。検診を受けていないという相談なのか。それと、日本語が話せないと幼稚園を断られてしまうケースが多いということだが、保護者が日本語を話せないということなのか、子どもが話せないということなのか。」

事務局高橋専門調査員「まず、妊娠の相談だが、産める病院を探しているといった具体的なことよりも、妊娠したのだがどうすればよいかといったもう少し漠然とした相談が多いようだ。幼稚園を断られてしまうケースというのは、どちらかというと保護者が日本語を話せないというケースだと思う。」

葉委員「外国人子育て応援キャンペーンでキットを配布するということが、どこで配布するのか。」

金部会長「資料に書いてあるが、母子健康手帳を渡すときだ。」

ホサニ委員「一番気になっているのは、幼稚園とか保育園の申請書が難しいことだ。」

金部会長「幼稚園というよりも保育園だろう。」

タカハシ委員「質問だが、産む病院の予約がとれなかったらどうするのか。帰国することになるのか。」

事務局高橋専門調査員「先ほどは川崎市には産めるところが少ないという話をしたが、川崎市以外という選択肢もある。もちろん、近い方がよいと思うが、川崎市で見つからないからといって母国で産んでくださいという話にはならない。」

ホサニ委員「病院が探せなくて困るということだが、たとえば英語を使える病院のリストのようなものを配ったりしているか。」

事務局高橋専門調査員「川崎市には『かわさきのお医者さん』という多言語に対応したサイトがある。『かわさきアプリ』からも見ることができる。」

金部会長「日本では母子健康手帳があることで、妊娠の非常に早い段階から妊産婦の健康管理をする制度が整っているが、状況がわからなかったり、日本語がわからなかったりということで、本来受けるべき行政サービスを十分に受けられていない人がいるのではないかと思う。一方で、参考資料にあった子育てチャートはそのあたりのことも含めてすごくよくできていると思った。」

河本委員「アプリはいろいろな情報があってよいと思う。川崎区と麻生区ではタブレット端末を使った同時通訳もやっているの、相談をしたら丁寧にサポートしてくれる。」

ケゼンダ副委員長「私もかながわ国際交流財団の資料はとてもよいと思った。市のホームページにリンクを貼ったらよいのではないか。」

葉委員「川崎区と麻生区でタブレット端末を使って同時通訳ができるということだが、FacetimeならiPhoneかiPadがあれば誰でもできる仕組みだ。ほかの区でも自分がiPhoneかiPadを持っていれば利用できるのではないか。」

事務局高橋専門調査員「問題は通訳者だ。川崎区と麻生区では業者と契約をしている。iPhoneやiPadがあれば誰でも、どこでも利用できるというわけではない。」

タカハシ委員「検診の案内は宛名を見て多言語の案内を送るかどうか判断しているということだったが、担当しているのは母子健康手帳と同じところだと思うので、母子健康手帳を渡すときに言語の希望を聞いたらどうだろうか。」

金部会長「ちなみに、母子健康手帳は産む人の名前前で、検診のお知らせは出生連絡票をもとに送られてくるので子ども名前だ。外国人の場合には、親と子どもの名字が違うことも多数ある。」

葉委員「住民基本台帳に子どもの国籍は載っていないのか。」

事務局高橋専門調査員「住民基本台帳には国籍は載っている。ただ、配偶者のどちらかが日本国籍だった場合には、子どもも日本国籍になっていると思う。ただし、それ以上に住民基本台帳を基にするか、出生届けを基にするかということよりも、ある程度の数のものを市から郵送するときに1件ずつ国籍などを確認するということが作業として非常に大変だということがある。また、インタビュー調査の報告のときにも紹介したが、自分は日本語で資料が欲しいという人もいる。むしろ、予防接種の案内のように一律で日本語と多言語の案内をするという方が現実的だと思う。」

韓委員「予防接種を母国と日本の両方で受けている場合、引き継ぎが難しいとのことだが、手帳のようなものに記録していれば簡単ではないか。」

事務局高橋専門調査員「ここでの意味は、予防接種を受けた証明ができないということではなく、国によって予防接種の種類や時期が違ったりするということだ。日本で受ける時期とみなさんの母国で受ける時期が違ったりすると、

スケジュールを組んだりするのが複雑になってくるという意味だ。」

ホサニ委員「今までのところで感じたのは、検診のお知らせも予防接種と同じように日本語と多言語の併記にできないかということ。あとは、いろいろな役立つ情報を母子健康手帳に追加できないか。」

事務局高橋専門調査員「2つ目のアイデアについてだが、母子健康手帳に入れるということだったが、中に入れるということではなく、母子健康手帳と一緒に配るという理解でもよいか。」

鈴木委員「予防接種を受けていない子どもは保育園に入れないとか、学校に入れないなどはあるか。」

金部会長「私の理解では、受けていないことがわかったら、受けてくださいということにはなと思うが、そのことによって入学を拒否されるということは基本的にないと思う。ほかに何かあるか。(なし)それでは、そろそろ時間も押しているので今日の議論で出たポイントをまとめておきたい。事務局お願いできるか。」

事務局高橋専門調査員「私の理解では、ポイントは大きく2つ。1つは、保育園の申請書について。これは今回資料を用意していなかったもので、次に審議するときには準備したい。もう1つは、多言語のいろいろな情報があるということもわかったので、母子健康手帳を渡すときに伝わるようにするというアイデアかと思う。それと、検診の案内に多言語の併記をとというのがあったかと思う。」

金部会長「個人的には、私はやはりこの子育てチャートがよくできていると思う。ただ、これは一般的なものなので、川崎の状況にあったもう少し詳しいものがあったもよいかと思った。残りの時間で次回の審議テーマについて話し合いをしたい。事務局から説明をお願いする。」

事務局高橋専門調査員「次回のテーマは医療・病院だ。今までに出てきているアイデアとしては、1つは病院やクリニックの入口に対応できる言語の目印があると助かるというもの。もう1つは、医療通訳の派遣制度はあるが、区役所で導入したように医療通訳でもタブレット端末を活用した同時通訳はできないかというもの。その上で、次回、参考人を呼ぶかどうかを決めてもらいたいのだが、もし参考人を呼ぶとしたら事前に質問を集めて、回答を準備してもらおうという流れになる。」

河委員「参考人には誰に来てもらうのか。」

事務局高橋専門調査員「誰に来てもらうかは、みなさんが何を知りたいのかによる。」

今の段階では、質問を集めていないので、誰に来てもらうのが適切なのかわからない。」

葉委員「私は多摩病院をよく利用するが、医療通訳を呼ぶ費用は病院が負担してくれる。実際の利用件数や費用が知りたい。それと、もしタブレットを導入したらどのくらいの費用がかかるのか知りたい。」

タカハシ委員「緊急のときに119を呼んだときの流れが知りたい。言葉が通じないときにどうなるのか。」

事務局須藤課長補佐「外国人が119に通報した場合、本人、救急隊と通訳の3人で、三者通話できるシステムはすでにある。あとは、救急車の中ではイラストなどを使ってコミュニケーションをとる用意はしてあるそうだ。」

ケゼンガ副委員長「外国人が医療について相談するときの相談内容で多いものが知りたい。」

タカハシ委員「医療通訳派遣の利用状況と予定の時間をオーバーしたときにどうなるのかを知りたい。」

事務局高橋専門調査員「今、みなさんのリクエストを聞いていて、やはり基本的な部分でわからないことが多いようなので、まずは基本的なことを勉強して、議論をして、課題を整理してから参考人に来てもらった方がよいのではないか。」

金部会長「それでは、4月の会議ではまずは勉強をして、その上で参考人に来てもらうということはどうだろうか。賛成の人は手を挙げてください。（賛成多数）それでは、4月はまだ参考人招致はしないことにする。時間になったので今日はここまでにしたい。医療・病院について資料のリクエストがあれば、今月中に事務局までお願いする。」

## 【全体会】

ケゼンガ副委員長「それでは、全体会を再開する。前回も言ったが、部会報告は自分が参加していない部会の審議にかかわるための時間なので、質問や意見があれば積極的にお願いする。まずは、情報・社会教育部会から部会報告をお願いする。」

ピーターソン部会長「本日は情報に関して審議した。前回の最後に市のホームページを見てくるようにと宿題を出したので、まずはその感想について話し合った。市のホームページはすごく情報が多いが、どういう情報が最新の

ものなのかよくわからないという意見が出た。ほかには、情報が分散し過ぎていて、どこに何があるのかわからないという意見も出た。市のページと区のページがあるので、自分が欲しい情報がどちらにあるのかわからないといった意見もあった。それと、PDFが多いが、PDFだと自動翻訳ができないという指摘があった。今後の方向性としては、情報の整理、多言語化、PDF以外の情報提供といった意見が出た。ほかには、市のホームページへどうやって誘導するのかということも課題だということになった。簡単ではないと思うが、情報リストの案内をすべての外国人に郵送したらどうかという意見も出た。基本的には、インターネットでの情報発信を中心に考えていきたいと思う。次回からは、オリエンテーションコースと日本語学習セットにして2回審議するということが決まっているが、現状を知るために今回は国際交流センターの方に参考人として来てもらうことになった。」

ケゼンダ副委員長「同じ部会から何か補足などはあるか。（なし）では、地域生活部会の代表者から質問や意見はあるか。」

葉委員「PDFについてだが、PDFはデメリットばかりではないと思う。PDFをやめるという方向性にしてしまってもよいのか。」

ピーターソン部会長「その通りだ。その点については、どのような情報をPDFにして、どのような情報はPDFではない方がよいのか、ガイドラインのようなものを作ったらよいのではないかという話し合いをした。」

ケゼンダ副委員長「ほかに質問はあるか。（なし）それでは、続いて地域生活部会の報告をお願いします。」

金部会長「今日は子育て、とくに妊娠・出産、乳幼児期の子育てというテーマで話し合った。まずは、これまでの代表者会議での提言について確認をした。その上で、保育園の申請書が難しいといった意見があがった。ほかには、かわさき子育てアプリをもっと活用したらよいのではないかと意見が出た。今回、かながわ国際交流財団が実施を予定しているという外国人子育て応援キャンペーンについての資料や妊娠してから子どもが小学校にあがるまでのことがわかりやすく説明されている子育てチャートなどを見た。多言語のものもあるし、とてもわかりやすいものだったので、母子健康手帳を渡すときに一緒に渡せるとよいといった意見が多く出た。予防接種のお知らせについては、封筒に多言語で案内が書かれているということがわかった。一方で、検診のお知らせはルビ付きだったので、予防接種と同じように多言語の案内があるとよいと

いう意見が出た。次回は、医療・病院について審議する。医療・病院については、参考人を呼ぼうと考えているが、まずは現状を調べたりして何を聞くのかを明確にしてから来てもらおうということで、4月には呼ばないことにした。」

ケゼンダ副委員長「それでは、同じ部会から何か補足はあるか。（なし）情報・社会教育部会の代表者から質問や意見はあるか。（なし）では、部会報告を終わりにする。今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いする。」

#### 【事務連絡】

- ・年次報告書について
- ・次回の会議について

ケゼンダ副委員長「何か質問はあるか。（なし）今日で一年目の会議が終了となる。次回の会議は4月23日、午後2時からここ国際交流センターで開催する。これで2016年度第4回第2日の会議を終わりにする。みなさん、1年間お疲れ様でした。」